

## 健診の判定ってどうしているの？～数値と判定の違いについて

健康診断結果の基準値は受診者の方の診断をするにあたって正常、異常を判別する上に重要な指標です。また、この基準値は人間ドック学会が提示するガイドラインをベースに決められており、基本的にはどの医療機関でも同じ数値です。



数値やプラスマイナスではっきり表示される「基準値」に対して、基準値から診断する「判定区分」があります。これは、「正常」と「異

常あり」に分かれ、さらに「異常あり」は「軽度異常」「経過観察」「再検査」「精密検査」「治療」と分かります。そして、この判定は健康診断を受ける病院やクリニック、加入中の健康保険組合、管理する自治体によって、かなり異なります。しかも、前年と同じ数値であっても、判定結果が前年とは違う?!という結果に気がついた方も多いと思います。これは、前年に受診された方は、前回の結果と比較して判定をしているからです。



簡単な例を紹介致します。

(例1) Aさん

前回：軽い貧血 →判定 半年後の経過観察 (C6)

今回：軽い貧血 (前回と変わらず) →判定 1年後の経過観察 (C12)

(例2) Bさん

前回：コレステロール高値 →判定 2～3ヶ月後の経過観察 (C3)

今回：コレステロール高値 (前回と変わらず) →判定 治療が必要です (D1)

数値が同じなのに判定が違う例です。理由は以下の通りになります。

(例1) Aさん

Aさんは前回と比較して、貧血は進行していません。今回の他のデータと考え併せて、貧血をきたす重篤な疾患の存在する可能性が少ないと考えられます。Aさんにとって軽い貧血は体の許容範囲内と思われる為、経過観察の期間を延長しても支障ないと判断しました。

(例2) Bさん

Bさんの場合は前回コレステロールが高値の為、生活改善がなされるべきでした。しかし、今回の結果は前回と比較して変化がありません。このままだと動脈硬化が進行し、心筋梗塞、脳梗塞などを引き起こす可能性が高いと判断します。よって、今回の結果から治療を開始したほうが良いとの判断が導き出されました。

このように検査結果が変らなくても、判定が前年と比較した結果、変わる場合があります。受診した医療機関によって判定結果等は変わりますが、直近の結果だけでなく過去の結果と見比べてみるのが重要です。

もちろん何か自覚症状がある場合は放置せず直接受診をして診察を受けるようにして下さい。

参考) 当院 健康管理センターの9段階判定

区分	判定	説明
A	異常なし	今回の健診では異常所見は認められませんでした。
B	軽度異常 (現状では心配なし)	軽度の異常が見られますが、現時点では心配ありません。
C 1 2	経過観察 (1年後再検)	現時点では問題はありませんが念の為12ヵ月後に再検査を受けて下さい。年一回の健診でも代用できます。
C 6	経過観察 (6ヶ月後再検)	現時点では問題はありませんが念の為6ヵ月後に外来を受診し、再検査を受けて下さい。
C 3	経過観察 (2~3ヶ月後再検)	現時点では問題はありませんが念の為2~3ヵ月後に外来を受診し、再検査を受けて下さい。
C 1	要再検査	外来を受診し再検査を受けて下さい。
D 2	精密検査が必要です	専門外来を受診し精密検査を受けて下さい。
D 1	治療が必要です	専門外来を受診し治療を開始して下さい。
E	治療を継続して下さい。	このまま治療を継続して下さい。

\*再検査は基本的に健診と同じ項目を検査します。